

平成23年度 【 学園研究費助成金< B > 】 研究成果報告書

学部名 現代マネジメント学部

フリガナ カガ ヒロシ
氏名 岡田 広司

研究期間 平成23年度

産学官連携による街づくりの実践を通じた就業力育成プログラムの構築と理論

研究課題名 モデルの研究

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	岡田 広司	現代マネジメント	教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字~300字程度で記述)

近年、経済産業省が中心となり全国の商店街活性化を奨励し、新しい街づくり再生を進めている。本研究は、その方針を具体的な形で実践するマネジメント手法を構築するのを目的としている。つまり活動そのものが学生のキャリア・アップにつながるためのプログラムを構築し理論化するのが目的である。現在、文部科学省が重点課題としている「学生の就業力の育成と理論的手法の習得」を狙った研究である。これまで社会貢献として、椋山女学園大学現代マネジメント学部の学生が名古屋市、商店街等と連携して進めてきた活動を、単に貢献に留まることなく、学生自らのキャリア育成とつながる手法を構築し、継続性や現実性の高い活動のモデル化をねらった研究である。

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

椋大生による街づくり（商店街再生化）活動は、地域への貢献度も高く、様々な成果が評価されてきた。この活動を一過性で無く、今後、全国で展開される街づくり活動のモデルとすべく次のように展開した。①街の再生化マネジメントを体系化するためマネジメントの視座から理的手法を検討。②マーケティングの視座から地域住民や商店街振興組合の経営者の期待すべき街のあり方を調査・分析。③桜山の地域住民の特性、歴史、風土、資源などの地域性の調査・分析。④近年重要な課題である地震など災害に強い安全な街づくり、自然環境保護、バリアフリー、地域ブランド（知的財産）活用等から成る基本構想の検討。⑤これら商店街活性化活動の成果と検証をPDCAサイクル手法を使って実践し理論化へと展開した。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

全国各地で街づくり・商店街活性化活動が進められている中、筆者は椙山女学園大学の学生の協力を得ながら名古屋市桜山商店街再生化の研究を進めてきた。この活動は社会貢献として地域に活力をもたらし、安全で安心なコミュニティを作ることに加え、学生自身のマーケティング、商品開発、或いは現代マネジメント論の実践的学習や研究に大いに貢献した。

名古屋市や愛知県、商店街振興組合との産学官連携で進めている中、椙大生の貢献度は高く、消費者でもある学生の新鮮な発想はショッピング及びコミュニティの場としての商店街に大きな成果をもたらした。これまでの活動は全国的にも高く評価され、愛知県知事が認証する「愛知県ブランド商店街」に選定され、また経済産業省からは全国1万4千の商店街の中から「新がんばる商店街77選」に選定された。本年度の研究はこの活動を更に高度化すると共に新企画を実践し、文部科学省も重要視する学生の就業力育成プログラム構築と理論の体系化により、商店街活性モデルとしてまとめるに至った。

具体的には次の展開プログラムが確認された。①学術的及び実践的視点から街づくり基本構想を設定する。②基本構想には筆者が提唱する「新実質主義の提案」をコンセプトにする。つまり商店街を流通機構とする「実質的機能（機能的価値）」に加え、コミュニティや安全・安心等の精神的満足（情緒的価値）を重点導入する施策である。③基本構想には近年の注目課題、バリアフリー、環境保護、耐震等防災機構を包含させる。④基本構想実現のためSWOTT分析による地域特性の分析・検証を展開する。⑤活動はPDCAサイクル手法を導入し、常に活動を見直しながら展開する。⑥主な活動として、商品開発や桜山夏祭りイベント、小学生に対し商店街に関心を持たせ、仕事の大切さを伝える目的で、椙大生による教育指導企画「子ども店長」イベント等が実践され、商店街や地域の父兄から大変好評であった。これらは社会貢献のための街づくり展開プログラム実践の成果である。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①街づくり	②商店街活性化	③マネジメント	④バリアフリー
⑤知的財産	⑥マーケティング	⑦コミュニティ	⑧産学官連携

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもの数件を記載。)

著書

岡田広司『増補改訂版、現代マネジメント概論』[単著]、全253頁 (pp.214-241)、2011年9月1日、あるむ

論文

陳愛華・松岡守・岡田広司・世良清「知財教育における中日協力の方向性」三重大学教育学部附属教育実践総合センター、紀要第32号、2012年3月(予定)

学会発表

岡田広司「商店街を活性化するマーケティングイノベーション」日本知財学会知財教育分科会、第20回知財教育研究会、名古屋市立大学、2011年9月17日

岡田広司「地域の商店街を活性化するマーケティングイノベーション」商品開発・管理学会附属研究所第2回研究発表会、近畿大学生物理工学部、2011年10月1日